



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ 2010 推進ニュース

—介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！—

方針「今後の介護ウェーブの取り組みについて」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう！

介護のあり方と自らの行く先を見据えて「今こそ主張する時である」 2010年介護フォーラム「介護保険10年・これからの介護を考える」を開催（山形）

2010年11月14日（日）、酒田市総合文化センターにおいて2010年介護フォーラム「介護保険10年・これからの介護を考える」が開催され、県連各法人・事業所からの職員を中心に、庄内まちづくり協同組合・虹および本間病院友の会も含め、84名が参加しました。本フォーラムを通じ介護保険10年の現状と課題を検討し、より良い介護保険制度を求める共同の取り組みの推進の契機と位置づけ、県連介護福祉部会が主催しました。

フォーラムでの井田智氏（山形県民医連理事）による情勢学習では、2012年の介護保険制度の見直しでのたび重なる負担増と、「介護の市場化」による共助切り捨てが明らかとなり、これに向けた全日本民医連の見解および提言にもとづく、介護保険の抜本的改善を求める署名活動、介護ウェーブの取り組みへの確信を得ました。



また、山形県ヘルパー協議会の小池千恵子会長を講師に招いて、「最後まで安心して」をささえる介護・福祉をめざして”をテーマに講演いただきました。ここでは県内の訪問介護分野で多年にわたり活動し、指導者として活躍された体験をもとに、在宅介護の現状および自身の所感について講演されました。現在の介護保険制度改正論での訪問介護における「軽度者の利用料引き上げ」「24時間地域巡回型訪問介護サービス」の検討について、介護の実態を反映していないと指摘し、この間の介護保険制度がもたらした「介護心中・殺人事件」の痛ましい事例を紹介しました。介護の社会化が実現されない現状に向け、介護のあり方と自らの行く先を見据えて「今こそ主張する時である」と参加者に呼びかけました。

続いて、松本弘道氏（山形県連事務局次長）を座長に3題の報告があり、松木信氏（山形民医連理事）が「介護保険10年・検証事例調査」による24件の事例に基づき、県連が集約した介護と生活の厳しい実態について報告しました。さらに庄内医療生協の秋庭知典氏が「介護現場の実態報告」、松柏会の浦山巖氏が「ケアマネジャーから見た介護保険制度」の各テーマで報告しました。

フォーラム終了後に参加者が「酒田こぴあ」の店舗前で地域宣伝および署名活動に取り組み、買い物に訪れたかたに介護保険改善を呼びかけるパンフレットを渡し、署名を呼びかけました。

（山形県民医連介護・福祉NEWS 2010年11月24日より）

「無年金で介護保険料を今まで納めていないがどうしたらしいいか」 介護改善をめざして「介護110番」あさひテレビのカメラが入りました！(静岡)



静岡民医連介護福祉委員会では、全国的な「介護ウェーブ」の一環として、「介護なんでも110番」相談電話を11月27日午前11時より実施しました。11時になると早速相談の電話が入り、田町福祉サービスセンターの中嶋ケアマネジャーが対応しました。まもなく「あさひテレビ」のカメラが入りました。続いて黒山ケアマネージャーの電話にも相談が

入り、その時の様子がその日の夕方朝日テレビで放映されました。相談では「無年金で介護保険料を今まで納めていないがどうしたらしいいか」「今病院に入院しているが退院を迫られていて申し込んだが断られた。自分一人ではとてもみれない。どうしたらしいいか」等、深刻な相談が続きました。また、介護事業所で働いている職員からの相談もありました。今回の「介護110番」は11月24日に県庁で記者会見し静岡新聞などに番号が紹介され、それを見て掛けてきた人がほとんどでした。三島と浜松でも相談があり、全体で12件の相談がありました。

勢いあまって浜松駅コンコースまで追いかけて行く職員も

11月11日「介護の日」に、浜松ブロックは全日本のよびかけに呼応し、介護保険制度の改善署名とちらしをもって、街頭署名宣伝行動をおこないました。署名128筆を集め、ちらし147枚を配りました。当日はちょっと肌寒い日ではありましたが、若さあふれるケアマネジャー、ヘルパー、理学療法士ら7名が参加、友の会からも3名が鳴り物入りで応援に駆けつけてくれました。最近は、浜松駅前も往来する人が少なくなり署名が集まるか心配していましたが、そんな心配もふつ飛ぶパワーで、デパートから出てきた中年おばさんたちの前に立ちはだかり署名を訴えていました。また、勢いあまって浜松駅コンコースまで追いかけて行く職員もいるなど、久しぶりに活気ある署名宣伝行動でした。参加した職員からは「介護の実態が聞けた」「ケアマネの身分証もみせて介護保険制度の説明をした」等、プロならではの行動も。また、「施設に入って高額なお金がかかったが」「将来は介護福祉士になりたいが」と相談を持ちかけた方もいました。(静岡民医連ニュース No.9 2010.11.25より)

介護・保育・障害者福祉制度の改善を求めてフォーラス前宣伝を行いました 全体で70名の参加、介護署名348筆、保育署名258筆が集まりました(宮城)



11月14日、福祉ウェーブの取り組みで宣伝行動を行いました。保育の現場からは、現在の保育制度が変えられようとしていることと、子どものための保育制度へしていくことを訴えました。介護の現場からは、特養待機者の問題、職員の力で支えているが過重な負担が掛かっていることを紹介しました。障害者福祉の現場からは、障害者自立支援法の矛盾が継続して起こっていることを紹介しました。保育制度は最低基準の緩和が始まっており、これまでの措置制度から契約制度へと大きく変えられようとしています。介護の現場では、私たちの運動の成果である

「処遇改善交付金」が始まっていますが、実際には大きな変化はありません。障害者自立支援法は新法の設立がどんものになるのか、よりよいものにするために声を上げるときです。今後も福祉制度の改善を求め、行動していきましょう。(福祉ウェーブ実行委員会第2回ニュース2010年11月26日より)

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp